

2025年度 九州ルーテル学院大学
職員・PTA研修サポート by ルーテル 講演テーマ一覧

2025年4月1日現在

氏名	学科・専攻	職名	講演テーマ	主な対象者					保護者	講演概要・メッセージ
				教職員				保護者		
				幼・保	小・中	高校	特別支援			
坂根シルク	人文学科キャリア・イングリッシュ専攻	准教授	多様性を尊重する組織づくり	○	○	○	○	○	自分と異なる意見や考え、価値観を認めるコツを一緒に考えましょう！	
久保 幸貴	人文学科キャリア・イングリッシュ専攻	講師	表計算ソフトで家計簿やダイエット管理表を作ろう！	○	○	○	○	○	初心者向け。ExcelやGoogle Spreadsheetを使って自分専用の家計簿やダイエット管理表を自作してみませんか？	
山本 幹樹	人文学科キャリア・イングリッシュ専攻	講師	絵本で学ぶ英語のフレーズ、リズム、発音	○				○	子どもも大人も楽しめる絵本からは学びがいっぱい。英語の絵本の紹介をワークショップ形式でできたらと思います。	
井崎 美代	人文学科保育・幼児教育専攻	准教授	親子であそぼう！					○	親子がふれあひながら楽しめる、親子あそびを体験しませんか？	
金戸 清高	人文学科保育・幼児教育専攻	教授	文学講話(春の宵、夏の夜、秋の夜長、冬の晩など)		○	○		○	漱石・鴎外・藤村・芥川などの文学作品を一緒に味わってみましょう。	
香崎智郁代	人文学科保育・幼児教育専攻	教授	子どもの主体性を引き出す環境構成を考える	○				○	子どもが自分で考え、行動できるようにする環境にするためには、どうすればいいのか、一緒に考えていきます。	
永野 典詞	人文学科保育・幼児教育専攻	教授	保護者支援・子育て支援	○				○	保育施設における保護者への支援(子育て支援を含む)について、相談支援の方法を学ぶことができます。また、保護者支援の困りごと、困難事例がありましたらアドバイスします。	
永野 典詞	人文学科保育・幼児教育専攻	教授	良好な人間関係の作り方	○	○	○	○	○	組織や社会生活における良好な人間関係の構築について体系的に学ぶことができます。より良い人間関係は生活を豊かにすることができます。	
永野 典詞	人文学科保育・幼児教育専攻	教授	コミュニケーション・スキルの基礎を学ぶ	○	○	○	○	○	組織や社会生活におけるコミュニケーション・スキルの向上を目指した研修内容です。コミュニケーションが円滑にできることは、他者の権利を守り、各種ハラスメントを予防することにもなります。	
水町 愛	人文学科保育・幼児教育専攻	講師	新人保育者のための「ピアノ弾き歌いをラクにしてくれるコード伴奏の理論と実践」	○					保育者1～2年目の方を対象に、ピアノ伴奏のラク技「コード伴奏」の理論と実践について分かりやすくお伝えします。楽譜の中には音符がいっぱい、でも実はコード(和音)の仕組みを知ること、楽譜がスッキリ整理されて見えるようになります。伴奏がラクになると、もっと子どもと笑顔を交わすことができるようになりますよ！	
水町 愛	人文学科保育・幼児教育専攻	講師	泣き声、笑い声、おひるね大歓迎！ 0歳からの親子ふれあいサロンコンサート					○	乳幼児やその家族は「なかなかコンサートに足を運ぶ機会がない」「参加しても子どもがじっとしていない」「子どもの泣き声をあげるんじゃないかと心配…」という状況が多いのではないのでしょうか。しかし、乳幼児期にこそ、生の演奏に触れて欲しいものです。ほんのひととき、ご家族もホッと心休まる時間を過ごしませんか？泣き声、笑い声、おひるね大歓迎！踊っても走り回ってもOK！お友だちもできるかな？	
三井 真紀	人文学科保育・幼児教育専攻	准教授	研究者が見た本当のフィンランド ～子どもと大人と人権と～	○	○	○	○	○	国連調査によると世界一幸福なフィンランドの人々。保育と教育と人権について、旅行では見えないフィンランドの日常をご紹介します。	
岡村 健太	人文学科児童教育専攻	准教授	道徳の授業を生かすには	○	○	○	○	○	実は、道徳の教科書にも落とし穴があるので。授業としての「特別の教科道徳」を要として、学校全体の「道徳教育」に生かしていくのはどうすればよいか、そのコツをお伝えします。	
岡村 健太	人文学科児童教育専攻	准教授	つかもう本質、哲学対話	○	○	○	○	○	「いきいきとした子ども」とはどんな子どもの姿でしょうか？「大人になる」とは？「主体的な学び」とは？そもそも「学び」とは？「教育」とは？なかなかパツと言て答えられない問いを、参加者の皆さんでじっくり考えてみませんか。	
岡村 健太	人文学科児童教育専攻	准教授	探究学習ってどうやるの？	○	○	○	○	○	最近話題の探究学習、結局のところ、どうすれば上手にいくのでしょうか。そもそもの考え方から、実践での工夫、失敗例等々をお伝えします。	
岡村 健太	人文学科児童教育専攻	准教授	子どもが育つとは？－教室を眺める3つの視点－	○	○	○	○	○	良い教育方法だと言われているのに、導入しても成果が上がらない。そういった時、ひよっとすると、もっと前の段階に見落としがあるかもしれません。講師が教室を眺める際に着目している3つのポイント(関係性・思考・言葉)についてお伝えします。	
岡村 健太	人文学科児童教育専攻	准教授	これからの教育をどう考えるか	○	○	○	○	○	これからの教育はどう変化していくのでしょうか。これからの子ども達に大切な力とはどのようなものなのでしょうか。教育に関する考え方から、行政文書、授業の方法まで、依頼内容に応じて可能な範囲でお話しします。	
岡村 健太	人文学科児童教育専攻	准教授	今こそ生きる、過去の教育	○	○	○	○	○	過去の教育は古いと思われがちですが、現代にも、いや現代にこそ生きる思想が沢山あります。西洋教育史を中心に、過去の教育学者の言説から、現代の教育を見直してみませんか。	

氏名	学科・専攻	職名	講演テーマ	主な対象者					講演概要・メッセージ
				教職員				保護者	
				幼・保	小・中	高校	特別支援		
犬童 昭久	人文学科児童教育専攻	教授	子どもの絵の見方・受け止め方について考える	○			○	○	子どもが描く絵には、どのようなメッセージが込められているのでしょうか？そして、それをどう受け止めたらよいのでしょうか？ 十歳頃までの子どもは社会的情報量が少なく、その影響力もあまり受けていないことから、絵に表れる「心」の投影率が高いと言われています。発達段階ごとの子どもの絵の特徴について理解を深めることで、子どもがどのような存在で、何を考え、何を求めているかについて知るヒントが得られればと考えます。一緒に、子どもの絵の見方・受け止め方について考えてみましょう。
小原 孝徳	人文学科児童教育専攻	教授	小学校社会科の授業づくり		○				地域の事象を深く研究することで、楽しく主体的な学びができる社会科授業づくりにつながると思います。一緒に、地域の教材研修を深めましょう。
河田 将一	人文学科児童教育専攻	教授	あらためて特別支援教育を問い返す―通常学級での指導・支援に視点を置いて―	△	○	○			特別支援教育が完全実施となって15年以上の年月が経ち、国連からのインクルーシブ教育への勧告も踏まえて、あらためて通常学級での指導・支援と、学校全体の支援体制づくりの在り方を問い返します。
城戸 申一	人文学科児童教育専攻	教授	英文解釈 ～英文をわかりやすい日本語に直すためには～		○	○	○		例えば「mother's love of the child」を日本語にしようとして、「母の子どもへの愛」など全て「の」で片付けようとしてはいませんか。この英語の元を正せば、motherが主語で、loveが他動詞、そしてthe childはその目的語だと考えられます。すると「お母さんが子どもを愛すること」といった意味が浮かび上がり、所謂「分かりやすい日本語」になりますね。そういう側面で英文読解に取り組んでみませんか。
栗原 和弘	人文学科児童教育専攻	教授	子どもを伸ばす自立活動の指導				○		自立活動の指導についての基本を確認したうえで、子どもを伸ばす自立活動の授業のあり方について考えましょう。各学校の実情に応じた内容を準備します。
栗原 和弘	人文学科児童教育専攻	教授	特別支援学校における授業改善とカリキュラムマネジメント				○		日々の授業改善を通したカリキュラムマネジメントの進め方について考えましょう。各学校の実情に応じた内容を準備します。
栗原 和弘	人文学科児童教育専攻	教授	特別支援学校を活用した福祉子ども避難所について				○	○	地震などの発災時、避難生活で大きな困難を抱える障害のある子どもたちの避難所のあり方について考えましょう。
本田 裕紀	人文学科児童教育専攻	教授	タブレット端末を活用した協働的な学びとその可能性		○			○	現在、熊本市の小中学校で活用されているタブレット端末(特にiPad)でどのような学びが行われているのか、その目的や可能性について考える。
増本 利信	人文学科児童教育専攻	教授	感じてみよう。考えよう。ちょっと困っている子どもたちのこと。	○	○	○	○	○	みんなと一緒に遊ぶのが苦手、お片付けがうまくいかない。なかなか文字が定着しないなど、頑張っている子どもが見せるちょっとした困りの様子。どうしてそうなるのか、体験して話し合っ、子どもに寄り添った関わりができるように学びましょう。
増本 利信	人文学科児童教育専攻	教授	行動の理由から、子どもたちに合った支援に繋げましょう。	○	○	○	○	○	授業中に座席を離れてしまう子ども、毎日連絡帳にメモしているのに忘れ物が減らないことも、夜遅くまでゲームがやめられない子ども。少しでも良い関わりをするためにできること。一緒に考えませんか？
増本 利信	人文学科児童教育専攻	教授	読み書きの苦手な子どもへの支援のあり方	○	○	○	○	○	文字の読み書きの苦手さは、学習への意欲を低減させてしまいます。聞けばわかるのに読めないの、授業についていけない。わかっているのに書けないからテストで困ってしまう。そんな子どもたちを理解し、良い関わりができないか一緒に考えましょう。
石坂 昌子	心理臨床学科	准教授	思春期・青年期のころ		○	○		○	思春期・青年期について、アイデンティティや心の病理等を中心に講演をおこないます。子どもでも大人でもないこの時期のころを一緒に考えていきましょう。
岩永 靖	心理臨床学科	教授	スクールソーシャルワーカーと協働した校内体制づくり		○	○			文部科学省より「チーム学校」も示され、日常的にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携が行われてきていますが、どうしても問題対応型に陥りがちです、早期に課題のある児童生徒を発見し、少しでも予防的な取り組みができるような校内体制づくりとスクールソーシャルワーカーとの協働について、お話したいと思えます。
古賀香代子	心理臨床学科	教授	心のケアとマインドフルネス	○	○	○	○	○	心の健康とマインドフルネスをテーマにお話しします。マインドフルネスが注目されていますが、どうしてマインドフルネスが心の健康に役立つのでしょうか。マインドフルネスはありのままにきつただけ、というとてもシンプルな方法です。こころの仕組みに注目し、マインドフルネスの体験へご案内します。マインドフルネスを基本として、それぞれのニーズに合わせた内容にアレンジします。
古賀香代子	心理臨床学科	教授	教職員のメンタルヘルス	○	○	○	○	○	多忙な仕事のなかで、メンタルヘルスへの取組はとて重要で。うつ病の専門病棟で心理職として働いてきた経験を通し、セルフケアの方法や知っておくと役に立つ情報を提供します。ちょっとした実践で日々のストレスを軽くすることができるかもしれません。

氏名	学科・専攻	職名	講演テーマ	主な対象者					講演概要・メッセージ
				教職員				保護者	
				幼・保	小・中	高校	特別支援		
古賀香代子	心理臨床学科	教授	こころとからだのつながり～ポリヴェーガル理論をととして～	○	○	○	○	○	こころとからだのつながりをみていきます。ポリヴェーガル理論は、神経系のはたらきでつながりを説明しています。なぜ恥ずかしいと赤面するのか、なぜテストの前におなかが痛くなるのか、目からうろこの話がたくさん出てきます。この仕組みを知ると、ふだんの生活の中で、自分だけでなく周りの人への理解も違ったものになってくるから不思議です。
高野 美雪	心理臨床学科	教授	「子どもの声を聴く」とは		○			○	子どもは、聴き手の態度によって話せなかったり、話すことを迷ってしまうことがあります。子どもの思いや願いを「聴く」ためには、聞き手自身が成長する気持ちを持って自分を振り返る力も必要となります。一緒に「聴く」ための方法について考えましょう。
恒松聡一郎	心理臨床学科	助教	スポーツ指導における体罰問題	○	○	○	○	○	これまで行われてきた体罰研究の知見を踏まえ、その特徴と今後の展望についてお話します。体罰厳禁という共通の倫理意識は保ちつつも、「根絶すべき」等の結論に終わるのではなく、また加害と被害の観点のみに固執せず、なぜ人は体罰をするのかといった体罰現象の本質的理解にも迫ります。
恒松聡一郎	心理臨床学科	助教	LGBTQ+	○	○	○	○	○	2015年頃より急激に社会に浸透し始めた「LGBTQ+」という用語について、学術的な理解、および法制度や教育の観点からもお話します。
足田 忠寛	心理臨床学科	講師	ゲーム・ネットにハマる子どもたちの理解	○	○	○	○	○	インターネットの普及とともに発展してきたSNS、動画配信やゲーム。いつでもどこでも使えて、ネットは今は私たちの生活に欠かせないものになっています。ただ、一方で、ネット依存やゲーム依存といわれている問題を耳にすることも多くなってきました。なぜ子どもたち(大人も含めてですが)がここまでハマってしまうのか、最近のネットやゲーム事情も踏まえて子どもたちの視点に立って考えてみましょう。
久崎 孝浩	心理臨床学科	教授	子どものアタッチメント発達とその意味	○	○	○		○	私たちが忘れがちな“安心感・安全感”といった感覚が子どもの発達において重要だと言われています。不安や危機を感じたときに誰かがそばに居るといったアタッチメント経験が“自立心”や“心の理解”の成長にどのように関係しているかを考えてみましょう。
久崎 孝浩	心理臨床学科	教授	感情の仕組みと役割—ネガティブ感情とポジティブ感情—	○	○	○		○	人は成長過程や生活環境において常に冷静沈着というわけにはいきません。特にネガティブな感情経験は“くせ”になれば苦しみをもたらしますが、その感情経験があるからこそ“良き未来”が切り開かれるのではないのでしょうか。幾つかの感情を例にとつて、感情の仕組みと役割を考えてみましょう。
山口 倫子	心理臨床学科	准教授	スクールソーシャルワークについて	○	○	○	○	○	子どもを取り巻く状況は複雑かつ多様化しており、学校だけでは解決できない課題や問題が山積しています。カウンセリングではなく、その子どもを取り巻く環境へ働きかけるソーシャルワークを学校関係者のみなさまに知っていただき、スクールソーシャルワーカーと連携していただければ有難いです。
和田由美子	心理臨床学科	教授	アンケート調査の基礎	○	○	○	○	○	質問項目の作成から結果のまとめまで、アンケート調査で押さえておきたい基本事項について解説します。